



お子さんの発達を支援する方々に向けて情報を発信しています

大雪による影響を受けられた皆様、ならびに新型コロナウイルス感染症による影響を受けられている皆様には心よりお見舞い申し上げます。

新しい年が始まり、当センター内には真新しいカレンダーが掛けられました。年末には大掃除を行い新しい年を迎える準備をしましたが、年越しという節目のおかげで整理整頓が進み清々しさを感じる事が出来ました。

子ども達の生活の中には、卒園・卒業、入園・入学、進級、新学期等、様々な「節目」があるかと思えます。1日の中にも、起床・就寝、食事、入浴などの節目があります。このような節目＝区切りがあることで、目には見えない時間の流れの中で何とか行動を切り替えられていることもあるのではないのでしょうか。

社会の中でも色々な区切りがあります。例えば、駅には改札があり入場出場には切符やICカードが必要です。映画館やアミューズメントパーク等では入口でのチケットの提示が必要です。電車やバス等の乗り物には起点と終点、初電と終電が明示されており、扉は予告のチャイムやブザーの後に開閉します。お店のホームページやチラシにはセール期間が記載されており、通信販売等では契約解除や返品の期限が明示されています。武道には作法がありますが「礼に始まり礼に終わる」と言われているように、始まりと終わりの区切りがあります。学校ではチャイムが授業や休み時間の始まりと終わりを伝えていきます。これ以外にも、様々なルールや守る必要のあるマナーなどがたくさんあり、誰かが区切りを作って対応していることと思えます。



自閉症スペクトラムの特徴のあるお子さんにとっても、このような「区切り」はとても大切だと考えています。なぜなら「明確な区切り」は、曖昧で多量な刺激から今必要な刺激を選び取ることや、今やっていることを一旦やめて新しい行動へと切り替えていくために必要であると考えからです。

そして、自閉症スペクトラムの特徴のあるお子さんのために「明確な区切り」を作っていくには「始まりと終わり」「明確なルール」が必要です。「いつ始めるのか」「何をどのようにやるのか」「いつどのくらいで終わるのか」等の基準を明確に決めて対応します。区切ることによって一時的にお子さんが落ち着かなくなることがありますが、コロナ禍で体温測定に応じたり手の消毒が出来るようになっていく姿を見るたびに、一貫した基準と対応は有効であると感じています。

また、明確に区切ることは叱咤激励することではない。。。ということも大事なポイントです。お子さんに期待する行動の基準は一貫しながらも、「期待する行動が生じる工夫」「上手くやり遂げる工夫」「適切にやり終えることが出来る工夫」を見つけていく必要があります。これは、一人ひとりのお子さんの認知の特徴や行動の特徴を踏まえて見つけていきます。

このような対応が特徴にピッタリと合うと、基準に向けて一生懸命に取り組もうとするお子さんの姿が見られます。上手くいっていない場合には、一旦今のやり方をやめて、対応を見直すサインかもしれません。



作品のご紹介



2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大により、家の中で過ごすことが増えた子ども達ですが、ご家族に習いながら様々な作品作りに挑戦しています。そこで、今回も新しい作品をご紹介します。

ご紹介している作品は正確に、緻密に、繰り返し取り組む良さを活かしたものです。毎日毎日取り組んで完成させた「子ども達の日々の取り組みの結晶」をどうぞご覧ください。

自閉症スペクトラムの特徴のあるお子さんは短距離走型のため、最初はすぐに達成する量から始めるとうまくいくことが多いです。達成を繰り返せるようになってくると、大作への意欲も高まってきます。また、一気にやろうとせず、これらの作品のように、1日にやる量や時間を決めて日々繰り返すと、結果として作品が出来上がります。初めは「やりたがらない」「やろうとしない」ように見える子ども達も、まずはいち早く達成を経験できるように(説明説得はせずに)周囲の人が設定を作ることが、「意欲への近道」となります。

E・Tさん 小学2年生のお子さんの作品です



小さいアイロンビーズを一つずつ下絵に合わせて正確に置いていきました。最初は1色など簡単なものから始めましたが、今では様々な絵柄にチャレンジしています。アイロンビーズは出来上がるまでは地道な作業です。そっと置かないと隣のビーズが倒れてしまう繊細な面もあります。小さいビーズを一つだけお皿から拾い上げるのも練習が必要ですが一生懸命頑張りました。

W・Nさん 5歳のお子さんの作品です



小さいアイロンビーズで、色々なデザインにチャレンジしています。今回はその中の一部をご紹介します。これは星座シリーズです。それぞれの星座のマークを白いビーズで表現しています。さらに小さいビーズ細工にもチャレンジしました。針金の部分は家族に手伝ってもらいながら、細やかなデザインの星座を何個も作り上げました。

M・Eさん 6歳のお子さんの作品です



鮮やかな色合いの糸で敷物を作りました。これはスウェーデン刺繍というものです。一目ずつきれいに布をすくっていき、糸がよじれないように力を加減しながらきれいに刺繍していきました。糸の引き終わりを一目ずつキュッと抑えながら、繰り返しました。同じように抑えながら刺繍し続けるのは根気がいりますが、最後まで粘り強く取り組み作品として仕上げました。

お問合せ・お申込みは下記までご連絡ください

電話受付時間 火曜～土曜 9:00～16:00

子ども療育相談センター直通 03-3986-7060



【発行元・連絡先】

公益財団法人 明治安田こころの健康財団 子ども療育相談センター
〒171-0033 東京都豊島区高田3-19-10

発行日 2022年1月15日

わかたけ通信は
ホームページにも
掲載しています